

# ゆや県政報告

2011年 特別号 YY通信 No.12

発行責任者 三重県議会議員 杉本熊野

4月の三重県議会議員選挙で、皆様からのあたたかいご支援により二期目の当選を果たすことができました。

「子どもたちの育ちを支え合うあたたかな眼差しの社会」「若者が希望を語り、高齢者や障がい者などだれもが安心して暮らせる社会」をめざして、精一杯がんばります。

今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東日本大震災により尊い命をなくされた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

3月11日以降、私は、東日本大震災に伴う三重県の対応を報告し、復旧・復興支援を多くの方々に呼びかけてきました。

この間の活動の一端を報告いたします。今後の対応についてご意見等があれば、お寄せいただきますようお願い申し上げます。



## 三重県から被災地への支援

### 三重県東日本大震災支援本部の設置

(全国知事会の割り振りにより、支援対象県は宮城県)

### 主な物的支援 (5月6日現在)

県の 備蓄物資等	毛布5,855枚 簡易トイレ530台、担架300台 医薬品・衛生材料291箱など
市町の 備蓄物資	毛布18,005枚 アルファ化米24,800食 オムツ29,176枚 マスク17,000枚 乾パン21,920食など
県民からの 提供物資	生活物資や保存食など11,513箱輸送 現在は被災地の意向をふまえ一時停止
企業からの 提供物資	お茶12,000本 医薬品2,310箱 フリースジャケット10,000着 フリースパンツ3,000着 マスク400,000枚 お菓子100,000袋など

### 人的支援 (5月6日現在 合計1,133名)

県職員派遣 240名	現地支援職員派遣 (宮城県塩釜市)	72名
	現地支援調整要員派遣 (宮城県庁他)	36名
	防災ヘリコプター派遣 (岩手県・宮城県)	18名
	心のケアチーム派遣 (宮城県)	24名
	保健師派遣 (岩手県)	52名
	その他	38名
緊急消防援助隊		346名
警察		547名

### 被災者の受け入れ (5月6日現在 合計166名)

岩手県から	宮城県から	福島県から	茨城県から
3名	16名	138名	9名

提供可能住宅数1050戸、入居済み49戸

## 県内水産業の被害状況と対応

被害総額	魚類養殖	カキ養殖	その他
40億8,000万円	16億4,000万円	10億6,000万円	13億8,000万円

【県の対応】大規模地震津波災害緊急対策事業費交付金、漁業近代化資金利子補給上乗せなど

## 報告 希望のえんぴつプロジェクト



「文房具が足りなくて、新学期を迎えられない女川の子どもたちに支援を！」

私は、この間多くの皆さんに、被災地の子どもたちへの支援を呼びかけてきました。

全国から、海外からも多くの心が寄せられ、5月2日現在、募金 7,579,510 円をはじめ、たくさんの支援物資をいただきました。ありがとうございました。

おかげさまで女川の5つの学校(女川第一中学校、女川第二中学校、女川第一小学校、女川第二小学校、女川第四小学校)は、4月12日、新学期をスタートさせることができました。

この間の「希望のえんぴつプロジェクト」の活動状況を報告させていただきます。



### はじめは...

東日本大震災支援をきっかけに生まれた、三重県を中心とした市民有志のグループです。日系ブラジル人ら外国人との多文化共生をすすめる鈴鹿市のNPO法人「愛伝舎」の坂本久海子理事長をはじめとするメンバーや、伊藤徳宇桑名市議、広告代理店社員やデザイナー、そして杉本の、10人以下と小規模ながら、多種多様なメンバーが集まっています。

きっかけは、3月末、女川第一中学校の阿部一彦先生からの電話でした。

「新学期が始まるのに、文房具が足りないのです」その電話を受けたメンバーの一人が、阿部先生の取り組んできた人権や多文化共生教育の理念に近い「愛伝舎」に相談し、募金活動が始まりました。

4月初旬、この動きを知った広告代理店社員が「女川の子どもたちに未来を描くための鉛筆を届けたい」との思いから、募金活動を「希望のえんぴつプロジェクト」と命名。

デザイナーが専用ウェブサイトをつくってくれ、ネット上での支援も呼びかけていきました。

プロジェクトは、目に見える子どもたちへの支援ということから反響を呼び、多くの方に賛同いただき、この間、女川町の先生方のニーズに応じた物資を送らせていただいています。あわせて、物資支援のお話も多数いただき、これらは被災地間の格差や物資の集中を生まないように、女川町以外で被災した市町の先生方のニーズとマッチングさせていただきながら、届けさせていただいています。



スタッフミーティング

### 5月5日 女川へ行かなくては...

「4月12日 女川町の5つの小・中学校で、新学期をスタートさせることができました。

これも、三重県民、そして全国の方々が希望のえんぴつプロジェクトを通じてご支援頂いた賜です」との感謝の手紙が女川町教育委員会、小・中学校校長会から届けられました。

「希望のえんぴつプロジェクト」の活動が始まって約1ヶ月あまり。フル回転で物資支援を続け、募金も700万円を超える金額が集まってきた中、今後どんな支援が必要か、自分の目で見、耳で聞き、心で感じるため、スタッフを代表して坂本理事長と杉本が被災地へ行くことにしました。



5月5日 こどもの日 宮城県へ出発

### 5月3日 スタッフミーティング(愛伝舎にて)

#### 被災地の学校訪問の目的は...

- 1 女川町教育委員会への支援について
  - ・ 支援物資の充足状況を調べ、今後の支援内容について相談する。
  - ・ 「希望のえんぴつプロジェクト」の女川の担当者を確認する。
- 2 名取市への支援内容について相談する。
- 3 地域間格差の実態について調べる。

